部分

3

紫天鵞絨地花文刺繍卓被

1888 ～ 89 年頃
刺繍・絹、金糸
総 199.8 × 197.3

明治 23 年（1890）、
トルコ皇帝アブデュル・ハミル 2 世より

天鵞絨地の中央には、皇室の御紋章を意識した菊花文を中心にして、薔薇とカーネーションを中心とした円形の花文様を、四周にも四角から中心に向かって広がる同様の文様を表し、周縁にルーミー文様と小花の唐草文様を廻らす。さらに縁飾りとして、糸を編んで成形した薔薇の花と葉を紐飾りと共に廻らしている。これらの装飾は総て金糸による豪華なもので、16 世紀のオスマン・トルコの時代より行われてきた伝統的な宮廷刺繍である。本作品の刺繍は、厚紙による文様型紙をしつけ糸で止め、その上から金糸で包み込むように糸を刺していくディヴァル技法が用いられる。茎や葉は細い金糸を丹念に丁寧に刺し、花や実、葉の一部では平金を巻き付けた太い糸、螺旋状に巻いた糸など数種の糸を用いて、また花芯や主要な葉の葉脈部分にはスパンコールを用い、全体の表情に変化をつけている。その精緻な技術は、19 世紀末のトルコ宮廷刺繍の最高水準によるものと言えよう。

この作品は、明治 23 年 6 月 13 日、トルコ国特派公使海軍少将侍中武官オスマン・パシャがトルコ国皇帝の親書及びイムチャズ勲章を捧呈した際に、煙草器具等と共に贈られた品である。この使節は、明治 20 年に小松宮彰仁親王・同妃がヨーロッパ諸国を訪問された際、イスタンブールにてアブデュル・ハミル 2 世皇帝（在位 1876 ～ 1909）に、明治天皇から贈られた勲章を親書と共に伝達されたその答礼使節であった。この卓被中央の菊花文は、おそらくは小松宮ご訪問の際に知り得た皇室の御紋章を強く意識したもので、日本の皇室に贈るために特別に製作されたものであろう。

無事に任を終えて軍艦エルトゥールル号で帰路についた使節であったが、和歌山県沖で暴風に遭遇して沈没、公使以下約 600 名の死者を出すことになった。地元の住民の尽力で 69 名が救助され、政府は彼らを日本の軍艦二隻に乗せて本国まで送り届けた。このことを契機に、両国の友好関係が始まったと言われる。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

贈るこころ・受けとられた美
—世界の国々との交流のなかで
三の丸尚蔵館展覧会図録 No.36

編　集　宮内庁三の丸尚蔵館
制　作　艸藝社
デザイン　金子英之　i2 design associates
翻　訳　鶴岡厚生
発　行　宮内庁
平成 17 年 1 月 8 日発行
©2005, The Museum of the Imperial Collections

Heartfelt Gifts — Works of Art Received
– In Course of Imperial Household's Friendly Exchanges with Foreign Countries
The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.36

Edited by The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shōzōkan
Produced by Sōgeisha Ltd.
Editorial Design by Hideyuki Kaneko and i2 design associates
Translated by Atsuo Tsuruoka
Published by Imperial Household Agency
Issued on January 8, 2005
©2005, The Museum of the Imperial Collections